

子育て層（施設利用者）ヒアリングのまとめ

○ヒアリング対象者

つどいの広場えが利用者 6名：令和6年10月3日（水） 10：30～12：30
八日市子育て支援センター 5名：令和6年10月10日（金） 10：05～11：30

■ヒアリングでの主な意見

1 日ごろの子育てについて

○子育てを楽しむためには、自分が楽しむことが重要

- ・子育てが楽しい瞬間は、子どもの成長を身近に感じられることや子ども同士で遊んでいる場面を見ることである。
- ・子育てを楽しむためには、自分の心の余裕を持って自分が楽しむことが大切であり、近隣に住んでいる両親を頼ることや、施設を利用している親同士が抱える生活の悩みを共有し、気分をリフレッシュすることが重要である。
- ・子育ての悩みは、父親と子どもとの接し方がわからない、子どもの成長に差がみられること、年齢差のある子どもを一度に遊ばせる場所がないこと、季節や天候によって遊ぶ場所が限られてしまうこと、保育園に入園する時や育休及び産休を取る時の手続きや申請が難しいと様々である。

2 子育てしやすい・子育てを楽しめるまちの実現について

○いつでも遊べる遊び場や地域の多世代と触れ合える場が重要

- ・子育てしやすいまちにするためには子育て支援センターやつどいの広場が必要であり、市外の施設や公共や民営の施設と異なる良さがあるため、周知することが重要である。
- ・子どもが自ら考えて行動できる場所があり、地域の様々な世代との交流ができる場所があると良い。
- ・空き家や耕作放棄地を活用した子どもの居場所を作ることで、治安の改善や町全体の活性化につながるのではないかと。
- ・子連れでも行きやすい施設を増やすことが重要であり、芝生が管理され安全に多世代が遊べる遊具がある公園、子どもが遊んでいる様子を確認できる広くて見通しが良いカフェ、屋根付き駐車場がある買い物施設などがあると施設が利用しやすくなる。

3 行政にしてほしいこと

○子育てに関する情報発信の充実や行政手続の簡略化をしてほしい

- ・子どもを預けられる場所や保育園に関する情報がわかりやすく整理され、東近江市のホームページや公式LINE等で発信及び閲覧できるようにしてほしい。
- ・平日だけでなく休日も、子育て支援センターや幼稚園の園庭を開放し、遊べる場所を確保してほしい。
- ・育休及び産休手当の充実、医療費、給食費等の負担軽減、各種手続及び申請の簡略化をしてほしい。
- ・東近江市は自然環境が十分にあるが、河辺生き物の森のような子どもが安全に遊べる自然環境を確保してほしい。

子育て支援団体ヒアリングのまとめ

○ヒアリング対象団体

- つどいの広場えがお : 令和6年10月3日(水) 9:30~10:30
つどいの広場ぐるり : 令和6年10月3日(水) 13:30~14:45
湖東まちづくり協議会 : 令和6年10月3日(水) 15:30~17:00

■ヒアリングでの主な意見

1 子育て支援事業について

○子どもを地域で育てるという価値観の醸成、居場所づくり、生きがいにづくりに重点的に取り組む

- ・現在の取組は、一人一人に向き合えるイベントの実施や、未就園児だけでなく多世代をつなぐ場所づくり活動を行っている。子どもを地域で育てるという価値観を広げていきたい。子どもたち自ら行動するために居場所づくりを行っている。
- ・今後、取組みたいことは、さらに多くの地域の方を巻き込んで、それぞれの生きがいをつくることや、現在行っていることを事業化することがあげられる。
- ・子どもの居場所づくりの特徴として、ボランティア活動の持続可能に向けて責任問題の意識改革、有償ボランティアの雇用及び送迎バスの運営も行った。
- ・今後の課題は、市からの委託費で収支をやりくりすること、駐車台数の確保及び行政の相談窓口との連携である。

2 施設利用者の声・意見

○利用者は、日頃の不安や悩みを払拭して刺激を与えてくれる環境を求めている

- ・家ではどのように遊んでいいのかわからないが、スタッフが子どもの面倒を見てくれる。
- ・家で孤立して不安な時は、子どもを預けて、親同士で不安なことを共有できるので、リフレッシュできる。
- ・子どもを預ける年齢制限がないので、地域のおじいちゃんやおばあちゃんや先輩・後輩などの多世代と関わり、普段できないことが体験できる。
- ・他にも、家庭内での子どもとの会話が増えたこと、他学校の異学年などの新しい友達ができたと、安心して仕事に行くことができた等の意見がある。

3 東近江市の子育て環境について

○今後は地域全体で子どもを育てる環境が必要

- ・東近江市は、福祉医療費助成や子ども医療費助成など、子育てに関わらず様々な制度が充実しており、子育てがしやすいまちである。
- ・子育て支援施設が増加していることを、もっと周知するべきである。子どもを一人で育てるのではなく、地域で子どもを育てるという文化を広げることが重要である。また、子どもだけに着目するのではなく、子育て中の親と子どもの両方が大切にされる環境づくりが重要である。
- ・少しでも子どもを産みたいと思った人が産める環境を作ることが重要である。
- ・地域で子育てしやすいまちにするために、みんなで議論・話し合うこと、地域で子どもを見守ること及び地域との関係を断ち切らないことが重要である。